

# 私の想い

雑感



大丸公民分館  
分館長  
藤島 浩二

平成25年度も早いもので半分が過ぎました。夏から秋にかけては、どの分館も色々なイベントが続く忙しい時期です。

私が公民分館に役員としてお手伝いを始めたのは11年前です。4年後に分館長になり早いもので、今年で4期7年目になります。

十年一昔と言いますが、当時は振り返ってみると大丸分館も色々な事を行ってきました。「砂像まつり」もその一つです。当時は自分たちも楽しめるものやろうとする気運がありました。吹上の「砂の祭典」の物まねなどの意見もありましたが、地元にある砂浜を利用して楽しむと考えました。雑草だらけの砂地を皆で整備する一方、資金集めとして畑を借り、から芋を作り地元の焼酎メーカーのご協力で、オリジナルの焼酎を作り「松露の響」と命名し、販売しました。

この「砂像まつり」は残念ながら2年で終わりましたが、砂浜があり、焼酎メーカーがある大丸校区ならではのイベントだったと思います。その跡地は、現在は町が主催するビーチフェスタの会場となり、大会は県内外から多くのチームが参加しています。

「継続は力なり」何事も長く続けることが大事だという意味の言葉ですが、公民館活動においても例外ではないと思います。しかし、地域においては公民館への意識が年々薄くなっていると言われています。その理由としては、少子高齢化とこれに伴う人口減少、冠婚葬祭等が家々で行われなくなり相互互助が少なくなった、また、ほとんどの人が勤めに行くようになり地域に対する帰属意識より、働いている組織への帰属意識の方が高くなるなどが挙げられます。このような現状においては、色々なイベントや行事を継続して行う事が徐々に困難になってきています。

一方、全国には何百年も連綿として続いている祭りや芸能がたくさんあります。誰もが知っている有名な祭りから、ある特定の狭い地域でのみ行われている祭りもあります。いずれも先人たちが多大なエネルギーを注いで継続してきた貴重な物ばかりです。しかも

見て楽しい物ばかりです。それ以上に祭りをやっている人は楽しそうです。思うに、見る人も準備しやる人も楽しいから続けられたのではないのでしょうか。

公民館活動とこのような祭りや芸能を一緒に考えるのは無理があります。継続するためには参加している人が「楽しい・楽しむ」と思えることが大事だと思います。

地域に住んでいる義務だからとか、順番だからとでは無く「楽しいから・楽しむから」と言える様な活動やイベントをやりたいものです。

大丸分館も砂像まつりや焼酎販売は2年で中止しましたが、夏祭りや合同運動会は10年以上続いており、グラウンドゴルフ大会も継続して皆で楽しんでいきます。このようなイベントは形が変わっても続ける事が大事だと思います。

この為にも地域の一人一人がその地域内の会合やイベントには、顔を出すことが大事だと思います。

ある人が講演会で「ちよと顔を出さなくても、それは立派な公民館活動である」と言っています。まさにそれが公民館活動の第一歩だろうと思います。

## 編集後記

台風の直接の影響もなく、久しぶりに見る転作で時かれたソバの花が水田一帯に広がり、秋の深まる頃の収穫が楽しみです。畑では、甘藷の収穫も始まり、夏の晴天が続いたおかげで、収量も多いと聞きます。また、子牛の値段は高値が続いていますが、油・飼料の高騰などの問題が山積んでいます。

今、PPP問題が議論されていますが、日本農業は大丈夫なの！輸入食品は安心なの！ 老後は安心して生活出来るの！ 子育ては大丈夫なの。

私は、国策で手の届かない所に手を延ばせる議会を目指して、年齢・立場は違っても「住民の声」を最優先に議論をし、十年後、二十年後、任んで良かったと言えるまちづくりを進めます。

九月定例会で決定しました主要な事を「議会だより」129号により、お届けいたします。

今後とも住民の皆様のご意見をお聞かせ下さい。

(広報広聴常任委員 上原 正二)

発行責任者 大崎町議会議長

中倉 毅